

やまぶき

第18集

〈学校教育のための博物館活用の手引き〉



川 越 市 立 博 物 館

あいさつ

川越市教育委員会

教育長 新保 正俊

川越市教育委員会では、「志を高くもち自ら学び考え行動する子ども」の育成を目指した川越市小・中学生学力向上プランを作成し、学校教育における授業力向上及び授業改善に努めているところであります。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、「学校の新たな生活様式」を踏まえた教育活動も進めております。

川越市立博物館では開館以来、市内全小学3年生及び6年生を対象としたバス利用見学、県内外の小・中学校を中心とした校外学習への対応、特色ある町並みや収蔵資料を活用した教員研修会などを通して、博学連携を深めて参りました。また、「博学連携」の中核となる博物館利用研究委員会を組織し、小・中学校の教員と博物館職員が協働し、学校教育における効果的な博物館活用について研究・実践をおこなっております。

今回は令和元・2年度の2年間に於いて、社会科、総合的な学習の時間、体育・保健体育科の3部会を組織し、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、「伝統・文化の継承やスポーツとの関わりを探究する博物館を活用した授業づくり」を研究主題とし、博物館の効果的な活用について研究して参りました。

この「やまぶき第18集」には、本委員会で2年間の研究を基におこないました授業実践及び成果が「指導カード」としてまとめられております。ぜひ各校におかれましても、本研究の実践事例を参考に積極的に博物館を活用するとともに、子どもたちの学びをより効果的で楽しいものにするため、さらに、郷土川越への愛着と誇りの気持ちを育むための一助としていただければ幸いです。

結びに、今日までの熱心な研究と本資料の作成にご尽力された博物館利用研究委員会の皆様方へ心より感謝申し上げます、あいさつといたします。

博物館利用研究委員会

委員長 武蔵 昌行

令和元年度より、小学校では新しい学習指導要領に基づく教育活動が全面実施となりました。今回の学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められており、改善する上での配慮事項として、「博物館等の施設の活用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集等、学習活動を充実すること」が挙げられております。今後も引き続き、博物館を活用した学習が求められており、博物館の「はこ」「ひと」「もの」を活用した指導法の研究がさらに必要となります。

博物館利用研究委員会では、令和元・2年度の2年間にわたり、研究主題を「伝統・文化の継承やスポーツとの関わりを探究する博物館を活用した授業づくり」とし、社会科、体育・保健体育科、総合的な学習の時間における博物館の効果的な活用を研究してまいりました。スポーツとの関わりとして、児童生徒の関心が高い「東京オリンピック・パラリンピック」に注視し、オリンピック・パラリンピックに関連した資料を活用した授業づくりに取り組みました。社会科、体育・保健体育科、総合的な学習の時間のねらいと、収蔵資料との関連性を探り、7つの実践例を指導カードにまとめ、この「やまぶき第18集」に掲載しました。各小・中学校におかれましては、本実践例を参考に、今後も博物館を学習素材として積極的に活用していただければ幸いです。

終わりに、本研究を進めるにあたりご指導・ご助言をいただきました川越市教育委員会の先生方をはじめ、川越市立博物館の皆様、ご尽力をいただきました委員の皆様へ厚く御礼を申し上げます、あいさつといたします。

博物館利用研究委員会

目的

- 学校の教育課程に位置付けた博物館・文化財の活用の研究と実践
- 地域に根ざした博物館・文化財活用の研究

研究開発

各教科・領域の学習に活用できる博物館資料や文化財の研究・授業実践

教育普及

博物館活用の手引き
「やまぶき」の発行
博物館活用指導者研修会

校外学習支援

学習カード・指導カードの作成・配布

博物館利用研究委員会

委員長

事務局

副委員長

社会科研究部

体育・保健体育科研究部

総合的な学習の時間研究部

令和元・2年度の研究

伝統・文化の継承やスポーツとの関わりを探求する博物館を活用した授業づくり
～社会科・体育・保健体育科・総合的な学習の時間における博物館の効果的な活用～

■博物館利用研究委員名

武蔵野小学校校長	武蔵 昌行(委員長)	福原中学校教頭	谷口 泰夫(副委員長)
泉小学校教諭	永嶋 邦博	初雁中学校教諭	中村 愛
芳野小学校教諭	小林 義明	東中学校教諭	前田 佳祐
仙波小学校教諭	鈴木 孔大	砂中学校教諭	富口 直己
霞ヶ関西小学校教諭	草壁 佑哉	大東中学校教諭	齊藤 直樹
南古谷小学校教諭	忍田 卓也	川越西中学校教諭	関 幸子
中央小学校教諭	佐藤 亜紀子(R2年度)		

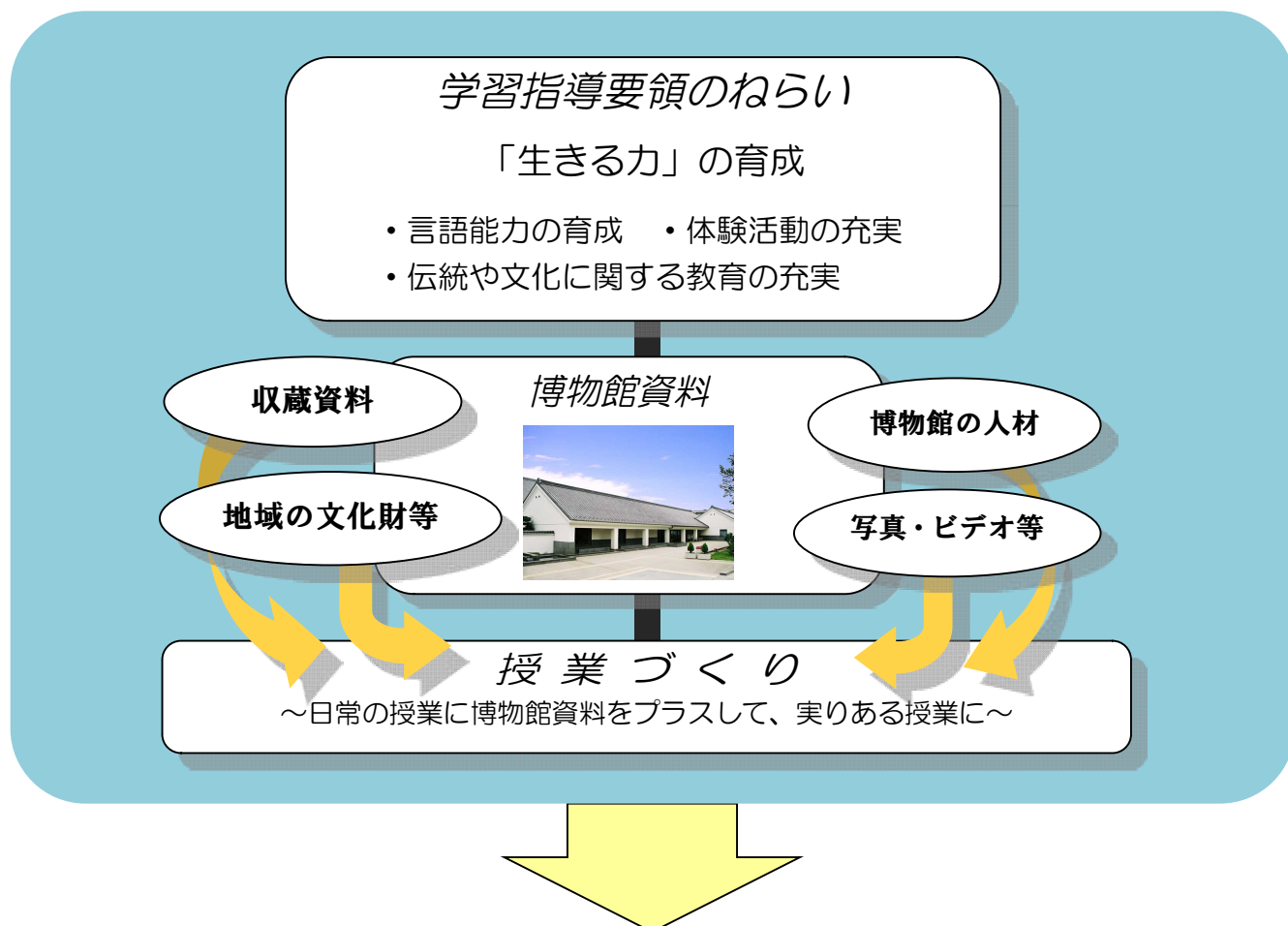
(R元年度)

野田中学校教諭	坂巻 朋美	中央小学校教諭	長根 裕香
---------	-------	---------	-------

■担当した職員

沼田 健(指導主事)	長谷川 和志(指導主事)	伊藤 直仁(指導主事)
		(R元年度)

- 研究主題 -



研究主題「伝統・文化の継承やスポーツとの関わりを探究する博物館を活用した授業づくり」
～社会科・体育・保健体育科・総合的な学習の時間における博物館の効果的な活用～

研究の視点と手だて

社会科

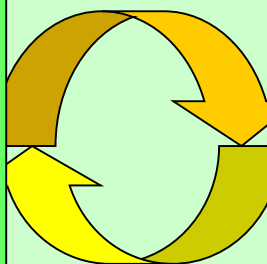
体育・保健体育科

総合的な学習の時間

研究の視点 1

◎伝統・文化の継承及びスポーツとの関わりを支える博物館活用の研究

- 博物館職員や収蔵資料等の活用実践
- 授業に活用する資料の検討・作成



研究の視点 2

◎授業実践による考察

- 「指導カード」の検討・作成
- 訪問授業の実践
- 授業後の考察

小学校第6学年 社会科 指導カード

1 単元名 「新しい日本へのあゆみ」

2 指導計画（8時間扱い）

- （1）終戦直後の人々の暮らし・・・・・・・・・・1時間
- （2）新しい国づくりがはじまる・・・・・・・・・・1時間
- （3）日本の国際社会への復帰・・・・・・・・・・1時間
- （4）発展した日本経済・・・・・・・・・・1時間
- （5）経済の発展と人々の暮らしの変化・・・・・・・・・・1時間
- （6）国際社会のなかの日本・・・・・・・・・・1時間（本時）
- （7）日本と国際社会を取りまく問題・・・・・・・・・・1時間
- （8）これからの日本とわたしたち・・・・・・・・・・1時間

3 実際の指導（6／8時間）

（1）目標

＜関＞資料から平和であり、経済的に豊かな国でないとオリンピックは開催されないことを知り、興味をもって学習に取り組んでいる。

（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名	活用の仕方	ねらい
新しい日本へのあゆみ (p. 222～223)	・資生堂「オリンピック クポスターセット」 18枚 (第1回から 21回まで)	・ポスターを並べてい き、どのような国で 行われているのかを 話し合う。 ・開催されていない年 があることから、そ の理由を考えさせ る。	・オリンピックを行う ことができる条件に ついて推測させる。 ・日本が戦後復興した ことを予想させる。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □博物館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 本時の課題を確認する。	○東京オリンピックが開催されることを話す。 □博物館職員によるオリンピック関連資料の提供 ○過去にも東京でオリンピックが開催されたことを伝える。		5分
	日本はなぜオリンピックを開催できたか考えよう。		

2	ポスターを見ながら、どこの国で開催されてきたかを知る。	○どこの国か、何年に行われたかを聞いていく。 ◎描かれている建物などに注目させながら国を予想させる。 ◎近くでじっくり見る時間をとる。 	・オリンピックのポスター	10分	
3	どんな国でオリンピックが開催されているかを考える。	○オリンピックが開催できる国はどんな国と考えられるかを聞く。 ◎開催されている回数が一番多い国を見つけさせ、その国がどんな国かを考えさせる。 ⇒発展している国、お金のある国など。 ◎開催されていない年があることに気づかせ、教科書の年表からその理由を探らせる。⇒戦争をしていたから、平和でないと開催されない。 ☆ノート、話合いの様子、発言（態）	・オリンピックのポスター	20分	
4	本時のまとめ	○日本がオリンピックを開催できた理由をオリンピックの開催条件から考え、まとめを書かせる。	日本は、高度経済成長などにより経済が発展し、国として認められて平和になったためオリンピックを開催することができた。		7分
5	本時の振り返り	○本時で学んだことを振り返らせる。 data-bbox="141 806 850 994"/>		3分	

4 成果

- ポスターを使用したことにより、児童の興味関心が高まった。
- ポスターを見て気づいたことを話し合い、多くの児童が考えを発表できた。

中学校第1学年 社会科 指導カード

1 単元名 「ギリシャ・ローマの文明」

2 指導計画（6時間扱い）

- （1）章の導入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- （2）人類の出現と進化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- （3）古代文明のおこりと発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- （4）中国文明の発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- （5）ギリシャ・ローマの文明・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間（本時）
- （6）宗教のおこりと三大宗教・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

3 実際の指導（5／6時間）

（1）目標

＜関＞博物館の資料から、オリンピックとギリシャ文明の関係性に興味をもち、意欲的に考えている。

＜知＞ギリシャ・ローマの文明と政治や社会の仕組みの特色を理解するとともに、古代文明が現在のヨーロッパ文化と結びついていることに気付く。

（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名（図録ページ）等	活用の仕方	ねらい
ギリシャ・ローマの文明（p. 28～29）	・資生堂「オリンピックポスターセット」 ・東京オリンピックの聖火リレーシャツ	・導入としてポスターやシャツを見せ、何に関わるものかを考えさせる。	・第一回五輪がギリシャで開かれていたことに気付かせる。 ・ポスターがオリンピックと関わりあるものであることに気付く手がかりとする。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 近代五輪がギリシャで始まったことに気付かせる。	□博物館職員によるオリンピック関連資料の提供 ◎ポスターを見せ、何に関わるものかを考える。 ◎ヒントとしてシャツを見せ、オリンピックに関わるものであることを協調する。 ☆博物館の資料から、オリンピックとギリシャ文明の関係性に興味をもち、意欲的に考えている。	・資生堂「オリンピックポスターセット」 ・東京オリンピックの聖火リレーシャツ	15分
  関 			

2	古代ギリシャの姿をとらえる。	○第一回近代五輪は、なぜギリシャで開かれたのか考えさせる。	20分
		なぜ、古代ギリシャでオリンピックが始まったのだろうか？ ○地図帳でギリシャの場所を見つけさせ、古代の姿と見比べさせる。 ○パルテノン神殿などから、古代ギリシャが高度な文化をもっていたことに気付かせる。 ○古代ギリシャがどんな国であったか、特徴を理解させる。 ・ポリスの形成 ・男性中心 ・民主政治 ・学問や技術の発展 ・オリンピア信仰 ○オリンピアの神々への祭りが、オリンピックの始まりであることを説明する。	
3	ヘレニズムのおこり、ローマ文明の特色を理解させる。	○マケドニアの東征、ヘレニズムがアジアに影響を与えたことを、資料から読み取らせる。 ○その後、ローマ帝国がヨーロッパを支配したことを理解させる。 ・キリスト教の保護→オリンピックの終わり	15分
4	テーマに対する自分なりの考察を書かせる。	○授業の内容から、古代五輪の始まりとギリシャ文明の関係を自分の言葉でまとめさせる。 ☆ギリシャ・ローマの文明と政治や社会の仕組みの特色を理解するとともに、古代文明が現在のヨーロッパ文化と結びついていることに気付く。 知	

4 成果

- ポスターやシャツから、生徒の関心を引き出すことができた。
- 古代文明という遠い時代のできごとに対し、東京オリンピック開催によって興味が高まっている分野からアプローチすることができた。

小学校第4学年 体育科 指導カード

1 単元名 「器械運動 跳び箱運動」

2 指導計画（9時間扱い）

- （1）学習の見通しをもち、安全に気を付けて協力して運動しよう。・・・ 1時間
- （2）昔の開脚跳びに挑戦してみよう。・・・ 1時間（本時）
- （3）かかえ込み跳びができるようになろう。・・・ 3時間
- （4）台上前転ができるようになろう。・・・ 3時間
- （5）発表会をして、友達の良さを見つけよう。・・・ 1時間

3 実際の指導（2／9時間）

（1）目標

＜関＞昔の開脚跳びに挑戦しようとしている。

（2）本時に活用する資料

資料名	活用の仕方	ねらい
・川越市立博物館所蔵 「川越小学校の戦前の跳び箱運動の授業写真」	・班で1枚資料を提示する。	・開脚跳びや跳び箱運動についての関心を高める。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 集合・整列・挨拶をする。	○健康状態を観察し、服装の確認をする。		1分
2 準備運動をする。	○学習で特に使う部位の筋肉を意識して伸ばすために声をかける。		4分
3 場の準備をする。	○役割分担を明確にし、安全に気を付けて準備させる。		3分
4 これまでに学習した跳び方で跳んでみる。	○跳び箱運動にはどんなポイントがあったのか思い出させる。 (助走、踏み切り、着手、着地)		5分
5 本時のねらいを確認する。	昔の開脚跳びに挑戦してみよう。		1分

6	写真を見て、気づいたことを話し合う。	☐ 博物館職員による写真パネル資料の提供 ☐ 班で1枚配る。教師用で拡大したものを提示する。 ☒ 児童の様子だけでなく、場所や跳び箱の形状などについても考えさせる。 ☐ 写真の児童の跳び方すべてが開脚跳びであることを伝え、興味を持たせる。	川越市立博物館所蔵 「川越小学校の戦前の跳び箱運動の授業写真」	5分
7	昔の開脚跳びに挑戦する。	☐ 安全には十分配慮して行う。 (エバーマット、補助者) ☆昔の開脚跳びに挑戦しようとしている。 関		18分
8	片づけ、整理運動を行う。	☐ 片づけは班毎に協力して、安全に行わせる。 ☐ 一人ひとりの表情を見ながら健康状態を把握する。		5分
9	本時のまとめをする。	☐ 本時のねらいに沿って学習を振り返り、ねらいを達成した児童を紹介し、全体に広めるようにする。		3分

4 成果

○写真を見て気づいたことを話し合う場面では、たくさんの意見が出た。さらに、川越の小学校ということで、子どもたちはより興味を持っていたようだった。自然と挑戦してみる流れになったので、跳び箱運動の導入としては、良い資料だと感じた。

○子どもたちは、「どうやって跳んでいるのだろう。」「こうしたら跳べる。」「自分たちと同じ小学生が跳んでいるのだから、僕たちもできるはずだ。」と意欲的に開脚ななめ跳びに挑戦していた。

○開脚ななめ跳びはとても難しく、できた子はほとんどいなかった。そのため、発達段階に合わせて他の学年で行うことも考えられる。

小学校第5学年 体育科 指導カード

1 単元名 「ボール運動・ゴール型ゲーム（サッカー）」

2 指導計画（10時間扱い）

- （1）サッカーをやってみよう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- （2）オリンピックからスポーツ精神を学ぼう。・・・・・・・・・・ 1時間（本時）
- （3）サッカーのルールを知ろう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
- （4）チームで練習や試合をしよう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6時間
- （5）サッカーを振り返ろう。・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

3 実際の指導（2／10時間）

（1）目標

＜関＞資料などからオリンピックの理念を考え、「友情」などの大切さをについて考えようとしている。

（2）本時に活用する資料

資料名	活用の仕方	ねらい
・1964年 東京オリンピックポスター ・友情を感じさせられる資料	・資料を全体に提示する。	・オリンピックについての関心を高める。 ・親善についての関心を高める。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □博物館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 学習を始めるにあたって前回の試合を振り返る。	○試合を行ったときの自分のチームや相手のチームとのかかわりの問題点などを子どもたちに投げかける。		7分
2 何のポスターか考える。	□博物館職員によるオリンピックポスター資料の提供 ○オリンピックのポスターを見せる。（最初は何のポスターか言わずに考えさせる。） ◎歴代のポスターを見せ、オリンピックには歴史があることを感じさせると共に、世界中で開かれ、注目されていることにも触れる。	・オリンピックのポスター （川越市立博物館より提供） 	1分

3	本時のねらいを確認する。	オリンピックが伝えたいことを考えて自分たちに生かそう。	1分
4	近代オリンピックについて知る。	○スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍など様々な違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもち、平和でよりよい世界の実現に貢献する、という考えを伝える。	3分
5	オリンピックの精神考え、価値を知る。	○どんな目的でオリンピックが行われているのかを話し合わせる。 ○オリンピックの価値は「卓越」「友情」「尊重/敬意」であることを説明する。 ◎「友情」を説明する時に資料を用いる。	3分 ・友情を感じさせられる資料。 
6	サッカー大会を行う意義をオリンピックと関連付けて考える。	○大会に取り組む意義や大切なことを考えさせる。 ○「親善」や「友情」というワードに注目させる。 ☆オリンピックの価値とサッカー大会の関連付けながら、大切なことを進んで考えようとしている。 関 （発言）	4分
7	簡単な試合を行う。	○先ほど学んだ内容を意識しながら、試合を行わせる。	23分
8	振り返りをする。	○本時で学んだことを振り返らせる。 ○スポーツの精神についてもう一度確認する。	3分

4 成果

- 「友情」や「尊重」などについて学習の最初に触れたため、授業では友達の良い点などを声に出して褒めていた。
- 学習カードに「相手を尊重したプレーができたか」という欄をつくり、児童は授業の終わりに毎回振り返ることができた。
- サッカー大会本番では、味方だけでなく相手がゴールした時も拍手をされていて「尊重」ができていた。また、大会後の新宿小との交流では、多くの児童が友達になることができたと話していた。

中学校第3学年 保健体育科 指導カード

1 単元名 体育理論「文化としてのスポーツの意義」

2 指導計画（3時間扱い）

- （1）現代生活におけるスポーツの文化的意義・・・・・・・・・・1時間
- （2）国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割・・・・・・・・1時間
- （3）人々を結びつけるスポーツの文化的な働き・・・・・・・・・・1時間（本時）

3 実際の指導（3／3時間）

（1）目標

＜関＞博物館の資料から、スポーツ用具の発展に多くの職業が関わっているに興味をもち、意欲的に学ぼうとしている。

＜知＞スポーツには民族や国、人種や性、障がいの有無、年齢や地域、風土といった違いを超えて人々を結び付ける文化的な働きがあることを理解する。

（2）本時に活用する資料

教科書ページ	資料名	活用の仕方	ねらい
・人々を結びつけるスポーツの文化的な働き（新しい保健体育(p.160～161)	・昭和初期剣道防具 ・初代軟式野球ボール ・野球グローブ	・昔の用具に触れさせ、現代の物との違いを考える。	・スポーツの発展には、用具の発展もあり、多くの科学者、技術者がいることを理解する。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ ☆評価	□館職員の働きかけ ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 誰とどのようなスポーツをやっているか考えよう。	○どのようなスポーツを行い、どのような人と繋がっているのかを考え、発表させる。		・教科書 P.160 やってみよう	5分
2 本時のねらいを確認する。	スポーツにはどのような役割があるか考えよう。			1分
3 教科書の範読、資料提示 ・スポーツは世界の共通言語	○スポーツには民族や国、人種や性、障がいの有無、年齢や地域、風土といった違いを超えて人々を結び付ける文化的な働きがあることを画像、映像を使用し、どのようなものか提示し、理解させる。			25分

・年齢や性をこえる ・人種、民族、国をこえる ・障がいの有無をこえる ・多様な職業を結びつける	・水泳リレー種目（4名の年齢の合計）（年齢） ・卓球混合ダブルス（性） ・オリンピック（人種、民族、国） ・ラグビー日本代表（人種、民族、国） ・車椅子ダンス（障がいの有無） ・ブラインドマラソン（障がいの有無） ・クロスカントリースキー座位（障がいの有無） ・ランニングシューズ（多様な職業） ・辻谷工業（砲丸）（多様な職業） ・小柴製作所（ホイッスル）（多様な職業）		
4 昔の用具と今の用具に触れ、感想を発表させる。	□博物館職員によるスポーツ用具資料の提供 ◎昭和初期の剣道の防具、野球のグローブ、ボールと現在の物に触れ、違いを見つけ、どのように変わってきたのかを考えさせる。 ☆資料から、スポーツ用具の発展に興味をもち、意欲的に学ぼうとしている。 関	・昭和初期 剣道防具 ・初代軟式野球ボール ・野球グローブ	15分
5 振り返り・まとめ	☆スポーツには民族や国、人種や性、障がいの有無、年齢や地域、風土といった違いを超えて人々を結び付ける文化的な働きがあることを自分の言葉でまとめることができる。 知		4分

4 成果

- 昭和初期の用具を実際に目の前にし、興味を持つことができた。また、実際に用具に触れることで、違いを肌で感じ、どのように発展してきたのかを考えることができた。
- スポーツの発展には用具の発展があることを知り、どのような人たちが関わっているのかを具体的に考えることができた。

小学校第5学年 総合的な学習の時間 指導カード

1 単元名 「こんにちは、世界は友だち」

2 指導計画 (30時間扱い)

- (1) 外国のことを知ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間(本時)
- (2) 世界の国々の現状を調べよう・・・・・・・・・・・・ 16時間
- (3) 「世界は友だち」の発表会をしよう・・・・・・・・ 6時間
- (4) 世界を実感しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間

3 実際の指導 (2/30時間)

(1) 目標

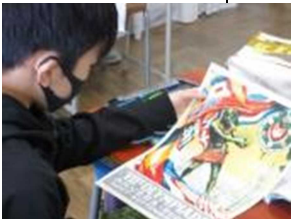
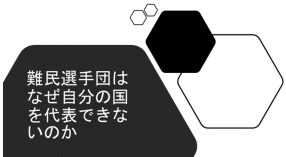
オリンピックに込められた、平和への願いの本質を考えながら、世界の現状に目を向け、自分の考えや思いをもち、東京オリンピック開催への期待感を高める。

(2) 本時に活用する資料

資料名(図録ページ)等	活用の仕方	ねらい
・第1～21回オリンピックポスター ・1972年札幌オリンピックポスター	博物館職員からそれぞれの場所の解説を聞く。	オリンピックについて興味・関心を高める。

(3) 展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 オリンピックについて興味・関心を高める。	○2018年平昌五輪において活躍した日本選手の写真を見せ、日本人の活躍が多くの人に勇気と感動を与え、日本でその姿を見ることができると伝える。身近なものとして捉えるように促す。 		2分
2 本時の課題を確認する。 	○学習の見通しを持てるようにする。 □博物館職員によるオリンピックポスター資料の提供 オリンピック・パラリンピックについて知ろう。	・1972年札幌オリンピックポスター	3分

3 オリンピックの開催国について知る。 	□博物館職員によるオリンピックポスター資料の提供 ○地図帳を参考に開催された国に色を塗ることで、世界について考えるきっかけを作る。 ◎班にポスターを回し、手に取り近くで見ることができるようにする。その際、扱い方に注意するように促す。	・第1回から21回までのオリンピックポスター 	10分
4 開催国や歴史クイズの答えをグループで話し合いながら考える。	○楽しみながら取り組めるように、班のみんなとクイズを考えるように促す。  		15分
5 オリンピック・パラリンピックについて考える。 	○日本の選手や難民選手団の選手の写真を見て、出身国を当てさせる。あるチームが同じチームなのに出身国が異なることに気づき、「なぜ自分の国を代表できないのか。」を考え、自分の考えを書かせる。 ☆オリンピックに込められた、平和への願いの本質を考えながら、世界の現状に目を向け、自分の考えや思いをもち、東京開催への期待感を高める。(ワークシート)  		10分
6 学習のまとめをする。 	○五輪の輪は、「平和への願い」であることを知り、東京オリンピック・パラリンピックへの期待感を高めるようにする。		5分

4 成果

○第1回アテネオリンピックから第21回モントリオールオリンピックまでの資料を活用することで、オリンピックについての興味・関心を高めることができた。

中学校第3学年 総合的な学習 指導カード

1 単元名「オリンピック・パラリンピック教室

～オリンピック・パラリンピックをもっと知ろう」

2 指導計画（8時間扱い）

- （1）オリンピック・パラリンピックについてのガイダンス・・・・・・・・・・ 1 時間
- （2）オリンピック・パラリンピックに向けて川越市が行っている取り組み・・ 1 時間
- （3）發知庄平と霞ヶ関カンツリーの歴史について・・・・・・・・・・ 1 時間（本時）
- （4）2回の講演を聞いてのまとめと、課題決め・・・・・・・・・・ 1 時間
- （5）PC室を利用した調べ学習・・・・・・・・・・ 1 時間
- （6）個人新聞作成・・・・・・・・・・ 2 時間
- （7）発表・・・・・・・・・・ 1 時間

3 実際の指導（3／8時間）

（1）目標

〈学び方・ものの考え方〉

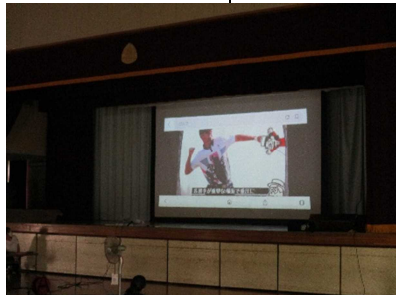
川越市にあるゴルフ倶楽部やそこにまつわる人の歴史を知り、オリンピック・パラリンピックに興味をもち、自分で行う調べ学習に生かすことができる。

（2）本時に活用する資料

資料名	活用の仕方	ねらい
・ゴルフ競技の説明動画（One Minute, One Sport） ・發知庄平と霞ヶ関カンツリーについてのパワーポイント資料	・ゴルフ競技について簡単な動画を見る。 ・博物館職員の方から歴史などを聞く。	・ゴルフを知らない生徒に興味をもたせ、今後の自分の活動への意欲を高める。

（3）展開

学習活動・学習内容	○教師の働きかけ □館職員の働きかけ ☆評価 ◎資料活用のポイント	資料名	時間
1 ゴルフ競技について知っていることを発表させる。	○ゴルフ競技を知っている生徒、知らない生徒、知っているならどの程度知っているか発表させ、興味をもたせる。		5分
ゴルフ競技や霞ヶ関カンツリーについて知ろう。			

2	ゴルフ競技についての動画を見る。	○ゴルフ競技を紹介した簡単な動画を見て、おおまかなルール、勝敗の決め方などを理解させる。	・ 説明動画 (OneMinute,One Sport ゴルフ編)	4分
				
3	霞ヶ関カンツリーと發知庄平についての講演を聞く。	□博物館職員が霞ヶ関カンツリー倶楽部の歴史やそれにまつわる人物の話、川越博物館に所蔵している資料の紹介をする。 ☆興味関心を高め、これから自分で課題を決める時の参考にしている。(ワークシート)	・ パワーポイントの資料	35分
				
4	次時の取り組みを知る。	○次時から個人テーマを決めることを伝え意識をもたせる。		3分
5	あいさつ			3分

(4) 成果

- この時間の前に、市役所の方を招いて川越市のオリンピックに向けての取り組みを紹介していただいた。それを受けての本時であったので、川越市で行われる競技に興味関心をもって取り組んでいた。
- 博物館の方から、地元に関わる歴史を聞くことで、関心が深まっていた。また、パワーポイントの資料で、図書教材や、所蔵している資料の写真を見せることで、興味関心が高まった。